序

通常，診断をするにあたっては相当の経験が必要です．

というのも，患者さんは症例カンファレンスのように時系列に沿って訴えるわけではないからです．主訴から脱線することもしばしばあり，そのお話のなかから重要なキーワードを抽出します．そして，キーワードだけでは診断には辿りつけません．診断に直結する所見を積極的にとりにいく必要があります．また，鑑別疾患を除外するための症状や所見も把握しないといけません．

この一連の診断に至る流れこそが初学者と熟練医師の大きな違いかと思います．実際の診療でもカンファレンスでも，「いつからその診断に辿りついていたの？」と聞きたくなるくらい，熟練者は直感的に早期診断しています．疾患のパターン（illness script）を体得しているからです．この瞬時に診断する直感的診断過程は「一発診断」「Snap Diagnosis」「瞬察」とよばれており，ここからは「一発診断」で統一しようと思います．

「一発診断」最大のメリットは，短時間で診断がつくことに尽きます．迅速な診断はすみやかな治療に結びつきます．余計な検査も省略できます．入院するかどうかの方針決定にも効果を発揮するでしょう．不安を抱いて受診された患者さんには，早期に診断をつけることによって疾患説明や今後の見通しも早めにお伝えでき安堵していただけるのではないでしょうか？このようなメリットは忙しい外来，特にERにおいては絶大な威力を発揮します．

一方でデメリットもあります．想起した疾患から離れることが難しくなり，新たに重要なキーワードが聞き出せたとしても他疾患の可能性を考慮できなくなってしまいがちです．この欠点については常に心に留めておきましょう．

多くの疾患パターンを体得するには数年～十数年の長い年月を要しますが，本書「ひと目で見抜く！ERの一発診断」は4名の救急医の叡知を集め，診断のポイントを一冊にギュッとまとめ上げました．数日あれば完読できます！また本書では，診断がついてから判明する所見（例：一酸化炭素中毒におけるMRI淡蒼球異常所見）は極力削り，診断に直結する所見ばかりをとり上げました．

救急診療を担う初期研修医の先生方，コンサルトを受ける専攻医や指導医の先生方にはもちろん，日々のトリアージを行うERの看護師さんにも，本書を手にとって学んでいただけると筆者らの喜びとなります．

2023年4月

トヨタ記念病院救急科
西川佳友